

ぎふディアコス「2階天井からの漏水に関する報告書」の概要

○ 報告書の提出状況

- ・下記の通り報告書の提出があり、その概要は以下の通りである。
 - ・平成 28 年 9 月 30 日 (金) 「2階天井からの漏水に関する報告書」
 - ・平成 28 年 10 月 5 日 (水) 「2016 年 10 月 2 日の 2 階天井からの漏水に関する報告書」
 - ・平成 28 年 10 月 19 日 (水) 「 同上 (第 2 版) 」

1 漏水の原因

・**屋根内部の結露水の落水が原因。** (屋根外部面からの雨漏りが原因ではない。)

*漏水の原因が雨漏りでないこと理由

- ・漏水日と降雨に相関関係がない。
- ・漏水日の屋根面点検では異常や不具合は発見されていない。
- ・漏水箇所が分散している。(雨漏りであれば一定の箇所が発生し続ける。)
- ・換気開始以降、着実に漏水日が減少している。
- ・昨年に比べ屋根内部の絶対湿度は低下している。(雨水であれば湿度低下はしない。)

2 結露の原因となる水分供給源

- ①: 今回の屋根工事は、長期間 (約 3 か月) であったため、工事期間中の降雨により、屋根内の建材全体が水分を通常より多く吸収した。
- ②: 室内から下記の湿気が屋根内部に流入している。
 - ・人体が発生させる水蒸気
 - ・コンクリート床、躯体が乾燥する過程で放湿した水蒸気
- ③: 屋外からの湿気の流入はほぼ無い。

3 今後の対策

◆これまでの仮設換気の実績

- ・換気装置を 3 台にした以降 (本年 7 月 10 日の漏水後の 7 月 15 日に設置)
⇒屋根内部の湿度が低下し、現在まで漏水は発生していない。

→ 報告書提出後の 10 月 2 日に漏水が発生

こうした実績から、

⇒換気装置 3 台による現在の換気を設計者・施工者共同負担により、
耐久性・意匠性に配慮した方法で常設設置する。

なお、コンクリートの放湿は一般的におよそ 2 年間程度で落ち着くため、

今年位までは結露しやすい環境にあることから、引き続きモニタリングを実施する。

(追加) 室内の相対湿度が冷房時の設計設定値 (温度 28℃・相対湿度 40%) に

なっていない (相対湿度 70%前後) ※ことから、空調運転の状況を精査すべきと考える。

※平成 28 年 9 月 25 日～10 月 2 日の期間